

基礎ゼミを支援する e-Learning コンテンツ

大阪国際大学経営情報学部 矢島彰

e-mail: yajima@mis.oiu.ac.jp

概要

大阪国際大学経営情報学部では1年次生対象の基礎ゼミ(科目名:セミナーI)が1ゼミ20名程度で16名の担当教員によって開講されている。担当者会議によって共通テキスト・マニュアルを編集し、各教員は共通テキストの内容に独自のプログラムを加えて基礎ゼミを運営している。共通テキストの内容は、大学生活のガイダンス、マナー、基礎学力、一般常識、キャリア教育、レポート作成と多岐に渡っている。従って、教員は必ずしも得意とする分野を学生に対して教えるわけではない。また、学生にとっては、内容が多分野であるが故に、基礎ゼミの位置づけが分かりにくい。多様化する学生に共通テキストを対応させることも困難である。このような問題を解決するために、共通テキストのコンテンツを、インストラクショナルデザインに基づいてe-Learningコンテンツ化し、フリーのLMSであるmoodleにて運用を試みた。

1. はじめに

大学における初年次教育の必要性が近年より注目されている。すでに多くの大学で1年次における基礎ゼミ(教養ゼミ)が導入されている。進学率の上昇に伴って学生の多様化が進み、入学した学生が専攻を決定して卒業論文を作成するまでの過程において、従来の教養科目と専門科目によるカリキュラムが効果的でなくなってきたからである。基礎ゼミの内容は大学によって異なるが、学習方法・レポート作成法・プレゼンテーション等、専門分野によらない学習・研究の基盤となる能力の育成しているものが多い。これらの基礎ゼミを通じて、学生が他の教養科目・専門基礎科目・専門科目を効果的に学習し、専攻(所属ゼミ)を決定して卒業論文を作成できることを目標としている。

大阪国際大学においても、担当教員によってカリキュラムの異なっていた1年次ゼミを、全担当教員が共通のテキストを用いたカリキュラムを実施する基礎ゼミの形式に平成11年度より変更している。入学生の学習習熟度の年次変化に伴い、基礎ゼミでのカリキュラムは年々増大し多様化するが故に、1つの単元の量を減らざるを得ない状況となっている。同時に学生にとっては基礎ゼミの目標が見えにくくなっているという問題点もある。現在の基礎ゼミの問題点を、e-Learningを用いて解消することを試みた。多様化するカリキュラムをインストラクショナルデザインによって整理し、LMS上のコースとすることによって、学生に個別対応可能な柔軟な基礎ゼミオンラインテキスト作成を目標とする。

2. 基礎ゼミ共通テキスト

大阪国際大学経営情報学部の基礎ゼミ共通テキストは平成11年度より作成されている。現在のテキストの目次は次の通りである。

I. 大学入門

- I.1 ゼミの友達の名前を覚えよう
- I.2 自己紹介しよう
- I.3 シラバスを見よう
- I.4 本学で習得可能な資格の紹介
- I.5 受講の心得
- I.6 ノートのとり方
- I.7 資料整理技法
- I.8 エンカレッジタイムで先生に質問しよう
- I.9 オフィスアワー
- I.10 学生相談室の案内

II. 知的能力育成

- II.1 音読のすすめ-受講生の音読リレー-
- II.2 短文要約
- II.3 読書レポート作成-夏休みに本を読もう-
- II.4 夏休み報告レポート
- II.5 比較分析演習
- II.6 基本常識問題

III. 大学祭

- III.1 イベント共同企画-大学祭に参加しよう-
- III.2 大学祭模擬店・企画パンフレット作成
- III.3 大学祭で何をやる?何が損で、何が得?
- III.4 模擬店の準備-費用と利益の計算-

IV. 資料分析プロジェクトI

- IV.1 課題と実施方法
- IV.2 テーマ設定と登録票の提出
- IV.3 レポートの作成方法
- IV.4 ライブラリツアー
- IV.5 情報の集め方
- IV.6 グラフの作成方法
- IV.7 資料分析プロジェクトレポート作成実習
- IV.8 口頭発表演習
- IV.9 昨年度の入賞作品

V. 社会人への一歩

- V.1 マナーに関する意識アンケート
- V.2 マナー-ロールプレイング形式で理解しよう-

- V.3 手紙の作成-出身高校などへ大学生活近況報告-
 - V.4 クリーンアップ作戦
 - V.5 キャリアデザイン講座-未来の「ありたい自分」探し-
 - V.6 卒業生講演会
 - V.7 自己診断から進路適性の認識へ
 - V.8 今までの自分を棚卸してみよう
- * 履歴書作成

I 章は履修指導・講義を聞くための心構え・教員とのコミュニケーション、II 章は国語力・数的処理、III 章は大学祭を通じての実習、IV 章はレポート作成、V 章はビジネスマナー・キャリアデザインを扱う。

3. テキストの e-Learning 化

3.1 インストラクショナルデザイン

基礎ゼミの位置付けを学生に示すために、卒業論文作成と就職活動を出口としたデザイン (図1) をテキストに掲載した。

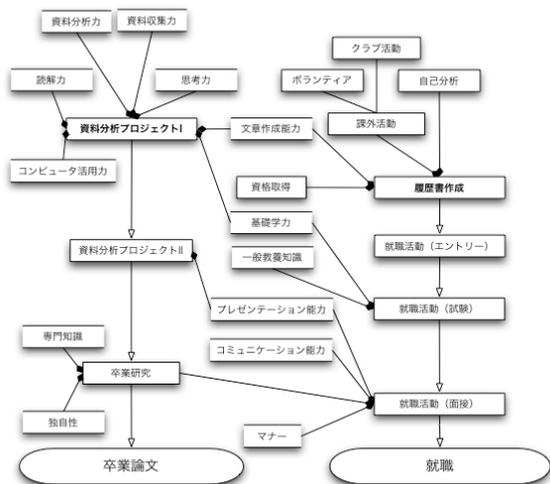


図1 学生が経験する学習イベントのデザイン

学生が経験する学習イベントの関連をクラス図の集約や継承の概念を用いて記述している[1]。ただし、イベントの時間の流れに合うように継承の矢印は逆向きとなっている。e-Learning 化にあたって、このデザインは教材の設計図となるものである。図中のイベント1つが教材の1単元となる。

3.2 moodle

基礎ゼミテキストをオンライン化するにあたり、moodle を採用した。moodle はオープンソースのLMSであり、導入が容易ある上に、必要なコミュニケーションツールが揃っていて、小テスト機能も豊富である。小テスト機能は、基礎学力育成において非常に有用であり、

教材を学生個々のレベルに対応したものにすることが可能となる。デザインに詰め込まれた、各単元の継承関係は moodle のレッスン機能で実現することが可能である。図1から基礎ゼミの核である資料分析プロジェクトI (レポート作成) 教材部分を拡大したものが図2であり、これが教材の設計図となる。

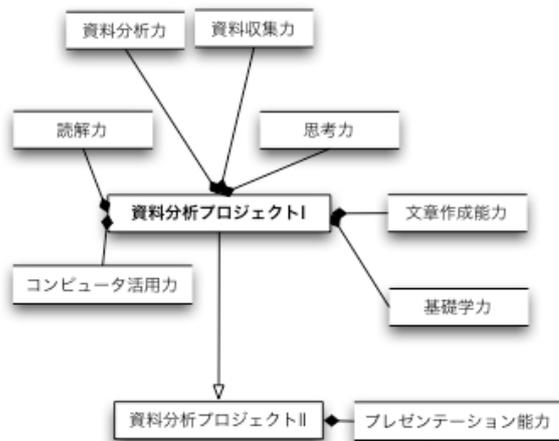


図2 資料分析プロジェクトI 教材設計図

図2の資料分析プロジェクトIIはプレゼンテーションであり2年次のイベントである。設計図から、「資料分析プロジェクトI」教材は「資料分析力」「コンピュータ活用力」「読解力」「思考力」「文章作成能力」「情報収集力」「基礎学力」教材からなる moodle のレッスンとして作成することが可能である。学生によって苦手分野は異なるが、e-Learning 教材とすることによって個別対応が可能となる。

4. まとめ

基礎ゼミは、多様な学生を対象として多くの単元を扱うため、特に初めて担当する教員にとっては負担が大きく、学生にとっては科目の位置付けが分かりにくいという問題がある。e-Learning を用いることによって、教材へのランダムアクセスが可能となり、学習履歴の管理も容易となるため、学生個別対応が可能となる。学習イベントをクラス図の継承・集約の概念によって表すことにより、より効果的な e-Learning 教材が作成可能となる。

参考文献

[1] 矢島彰, 江見圭司, 田中規久雄, 中條道雄, “オブジェクトモデルと用いた授業設計へのアプローチ”, 教育システム情報学会誌, Vol.20, No.2, pp209-213